

国立大学法人 長岡技術科学大学  
平成29年度第5回経営協議会議事要旨

日 時 平成30年1月25日（木）13時55分～15時55分  
場 所 ステーションコンファレンス東京605室  
出席者 東議長、天羽委員、池田委員、大貝委員、岡田委員、合田委員、五味委員、関委員、  
谷口委員、鎌土委員、三上委員、横山委員、佐藤委員、中出委員、大石委員  
（議事の表決委任による出席 磯田委員、岸委員）  
陪席者 齋藤監事、滝上監事、和田附属図書館長  
事務局 総務部長、総務部付次長、大学戦略課長、総務課長、財務課長、監査室長、  
総務課課長補佐、財務課課長補佐、総務係長、総務係員

議事に先立ち、東議長から平成29年度第3回議事要旨(案)及び第4回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. システム安全専攻に係る「国立大学法人長岡技術科学大学学則の一部改正」について  
三上委員から資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

2. 就業規則の改正について

横山委員から資料2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり。

○給与引き上げに係る財源は確保されているか。

●平成29年度学内予算の予備費で充てることとし、前々回審議いただいた補正予算に反映している。

3. 平成30年度学内予算編成方針について

審議に先立ち、関連する報告事項1. 平成30年度長岡技術科学大学予算の内示について、横山委員から資料4-1～3に基づき報告があった後、引き続き、資料3に基づき平成30年度学内予算編成方針について説明があり、審議の結果、これを了承した。

主な質疑応答は以下のとおり。

○地方創生推進交付金に申請していくとの説明があったが、学内予算に反映できるのか。

●スーパーグローバル事業等の補助金と同様に、事業目的に沿った用途となるため、学内予算の外枠となる。

○外部資金は目的以外の使用は認められないが、学内予算の事業をうまく組み込める方策があると良い。

○平成31年度予算のイメージでは、2億円不足する見込みとなっており、資金獲得の方針を立てないといけない。

●事業費を獲得しても、間接経費がつかない外部資金もある。研究系の外部資金は間接経費がつくので、教員には研究費を外部資金で獲得するよう促している。

また、事業経費の見直しを行い、経費削減を図っている。

○事業経費等の削減の方向性について、必要なものまで減らすことはない。無駄の考え方など大学全体での共通認識が必要。

○法人を成長させるには経費を絞るだけではなく、強みのある分野にフォーカスして、大きなプロジェクトに集中して取り組むことも必要。

●機能強化の取組などで、強みのある研究を拠点化し、大きなプロジェクトを獲得する構想である。現在は、地方創生プロジェクトの獲得などを目指している。

○スーパーグローバル事業や技学グローバルセンターなど、既存事業の成果から資金獲得を目指すことはできないか。

また、IoTやAIなどの注目される技術を本学で教えながら、地域や産業界に展開することはできないか。

●スーパーグローバル事業では、国際技学共同教育研究事業に賛同いただける企業等を募集し、寄付金を募っている。

○施設整備費について、開学以来40年が経過し、修繕費などの維持管理に経費がかかると思うが、どのように対応されているか。

●以前と比べると学内当初予算では、施設の維持管理費が減ってる。

本学では、目的積立金の使途において、改修工事を行っているものもあり、中長期を見通して、財源を確保していきたい。

○5年後の予算をシミュレーションし、そこから中長期的な計画を立てられないか。

○構成員がどれだけ大学の厳しい予算現状を理解しているかも重要である。

●昨年、シミュレーションした結果を基に学内で説明会を開催し、外部資金の獲得を目指すことや経費節減に努めることをお願いした。

報告事項

1 平成30年度長岡技術科学大学予算の内示について

審議事項3に合わせ、横山委員から資料4-1～3に基づき、報告があった。

2 平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果について

鎌土委員から資料5に基づき、報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり。

○高専一両技科大のシステムは、もっと評価されても良い。

○アピールがまだ足りない。工学分野の評価委員には認知されてきたが、一般的にはまだ理解されていない。

●評価において特筆すべき点として取り上げてもらえるように、アピールしていきたい。

以 上